

# 支 援

## 特集 フラッグアートと街づくり 南大谷中学校

11月10日、玉川学園駅を降りて、街の中に入りました。南大谷中学校のボランティアコーディネーターの前野さんが私たちを迎えてくれました。今日は学校訪問ではなく、街訪問となりました。

街には、南大谷中学校の生徒の作品であるフラッグアートが展示されているのです。展示といってもどこかの壁に飾られているのではなく、街の街路灯にフラッグが揚げられているのです。様々なフラッグが鮮やかに街を飾るように、そして、すっきりと溶け込んで揚げられていました。街の中を歩いてじっくりと見させていただきました。南大谷中学校、岡本校長先生のフラッグも名前入りで揚げられていました。前野さんから取り組みのきっかけや経過などをおうかがいしながら鑑賞させていただきました。途中商店会の会長の高橋さんとお会いしました。街路灯にフラッグを取り付けたり、宣伝に努めてくれたりされた方です。

このフラッグアートの取り組みは、5月から玉川大学、南大谷中学校、玉川商店会などが中心となって玉川学園80周年を記念して、街づくりの一環として取り組まれたものなのです。関係者の声を通して、取り組みを紹介いたします。

### 南大谷中学校 ボランティアコーディネーター 前野 紀夫

地元玉川学園の80周年を祝って南大谷中学校の生徒がフラッグアートを40枚作り、それが玉川学園商店街の街路灯に生徒名と共に飾り付けられました。道行く人々はその芸術作品を見上げ秋の日を楽しみました。岡本校長と80年祭の実行委員会に出席して「フラッグアート」企画に参加した春先から約7ヶ月、生徒たちのフラッグは以下の多くの皆様のご支援で完成して飾り付けることができました。

＊町内会の支援：実行委員会が芸術の秋「ギャラリーウオーク」に合わせ「フラッグアート」を企画して玉川大学芸術学部と折衝して基本案を作り製作の費用の負担もして下さった。

＊玉川大学の支援：芸術学部の三井教授、中島助教、はじめ先生・学生の皆様が2日にわたり「フラッグアート」について中学校でレクチャーと製作の実践指導をして下さった。

＊玉川学園商店会の支援：フラッグの飾りつけと管理一切を親切丁寧にして頂いた。道行く人々の評判が良いからと飾りつけの期間を一週間延長して下さいました。

＊南大谷中学校の支援：岡本校長、美術の中山先生、他の先生方や保護者の皆様が暖かく生徒を見守り指導して下さいました。

皆様の支援のもと生徒達はインフルエンザによる学級閉鎖にもめげず楽しみながら頑張って製作しました。当初フラッグアートは南大谷中夏休みのサマーオープンスクールの講座の一つとして予定されていましたが遅れて2学期にまたがりました。過密な学校行事の中での製作時間調整も大変だったと思います。風にはためくフラッグを見上げながら、あらためて皆様の支援や生徒達の製作の様子を思い浮かべ、これぞ学校と地域の支援コラボレーションの良い例だと実感した次第です。

### 玉川の街並みとフラッグアート

玉川大学芸術学部 教授 三井 秀樹

玉川の丘に学園の街が誕生して今年で80年を迎えます。

これを記念して、駅前の商店会の沿道の街路灯に幟(のぼり)、今風に言うとフラッグ(旗)を柱飾として制作するプランが持ち上がりました。地元の南大谷中学校の生徒さんに、私たち玉川大学の教職員(2名)と学生(10名)がご指導させて頂く、残暑の厳しい9月上旬、2日間にわたるワークショップでありました。

フラッグアートでは、道行く人々に遠くからでも見えるシンボリックな絵柄と周囲の環境を快適にする癒しのビジュアルが求められます。初日、フラッグアートの意味と目的についてレクチャーを受けた後、生徒たちは思い思いの絵やパターンをスケッチを基に縦長への布に彩色にチャレンジしますが、染料のために紙に描くようにはいかず、色の周囲がにじんだり色同士が混じったりと悪戦苦闘の連続でした。2日目に入るとそれぞれに工夫を重ね、染料特有の色のにじみ、ぼかし効果を生かしたパターンをつくりはじめ、次々に傑作が誕生するようになりました。

先日、生徒全員の作品が商店街沿道を飾り、「わが街80年まつり」に華を添えました。これまさしく、フラッグアート本来の役割を担ったワークショップであったといえるでしょう。

### 玉川学園商店会会長 高橋 靖昭

玉川学園商店街は小田急線玉川学園前駅周辺から町田方向線路沿いに位置しています。周囲は緑多く起伏に富んだ住宅地が広がり玉川学園(大学など)の言わば城下町、文教地区として発展し今年80周年を迎えております。その中であって商店街は多くの役割が期待されてはいるものの昨今は商環境の変化、時代の変化に対応しきれていない現状もあります。

夏まつりなど年間を通しいくつかのイベントで活性化を計っておりますが、近未来を見据えアートな部分でワクワク感ある楽しめる学園らしい商店街づくりで検討を始めているところです。そんな中このたびのギャラリーウオークで地元南大谷中学校生徒さんの力作40枚余りの街路灯フラッグを展示する機会を得ました。作品はそれぞれに個性があって描く生徒さんの気持ちを想像する楽しさがあり、道行く人々も見上げながら歩いていました。

市教育関係の方も来園されお会いしましたが、学校との交わりを深めることはいろいろな場面で地元密着の活動が必要な商店街としても意義のあることと思っています。商店街に鮮度をもたらした80周年行事の一場面でした。



### 「わが街 80 年まつりの会」副代表 大橋 成夫

ご存知のように玉川学園地域には、1999 年の「70 年まつり」に企画・実行された一つに「ギャラリーウォーク」があります。今年は 10 年目で第 11 回の「ギャラリーウォーク 2009」が 11 月 1 日から約 2 週間開催されました。

玉川学園「わが街 80 年まつり」の協賛事業の一つとして、中学生の参加が何かないかと考えたのがこの企画でした。小学生向けのイベントはいくつかあるのですが、中学生参加の事業はなかなかなかったのが実情でした。

普段は中学生との交流がなくどうするかと悩んでいたのですが、町五小のボランティアコーディネーターの方の紹介で、南大谷中学校のコーディネーターの方を知り、実現が可能になりました。指導は、最初から玉川大学ビジュアル学科の先生にお願いしようと目論んでいました。町内会を通じての交渉で、それも可能になりほんとにラッキーでした。

作品が、11 月 5 日に街路灯に展示されたのを見た時は、その出来栄えに久しぶりに感動で涙ぐみました。出来上がりは、ほんとうに想定外のいいものでした。これは地域皆さんはじめ南大谷中学校の先生及び生徒さん、玉川大学の先生、学生有志諸君、学校ボランティアコーディネーターの方々のご協力の賜物です。企画者として身に余る光栄でしたし、いい体験をさせていただきました。ありがとうございました。

### 玉川学園町内会 80 年事業担当 雨宮 正輝

はじめに、南大谷中学校のフラッグ製作に頑張ってくれた生徒さん、サポートをしていただいた校長先生及び美術担当の先生及び玉川大学芸術学部三井先生、中島先生、芸術学部の関係者の方々に御礼を申し上げます。

このイベントは、我が街玉川学園 80 周年事業のイベントとして玉川大学芸術学部の先生にご協力をお願いし、11 月のギャラリーウォーク開催時に、商店街のポールに中学生製作のフラッグを掲示しようと 80 年事業世話人会で企画し、南大谷中学校、玉川学園地区町内会自治会連合会、玉川学園商店会にもご賛同を頂き、11 月のギャラリーウォーク開催時に 40 本ものフラッグを掲載することが出来ました。

生徒さん達は、最初に幾何学的模様をフラッグに描こうと三井先生から話があり、最初はびっくりしていましたね!! それでも時間が進み先生や玉川大の学生さんの指導で、その意味がなんとなく理解が出来始め、そうすると下絵はかなりのスピードで仕上がり、早い生徒さんは、8 時間後には仕上がってしまいました。やはり若いって素晴らしい!! 頭が柔軟なんだなーと感心しました。商店街のポールに、風に揺らぐフラッグをみて、このイベントを企画実施できたことを喜びながら、皆さんの作品を楽しませていただきました。

本当にありがとうございました。



### フラッグアートに参加して

### 町田市立南大谷中学校長 岡本 喜美子

本校は、校歌に歌われているように花や絵や歌声を大事にする学校です。体育祭の 4 色の団のスローガンを描く団幕、生徒会役員が年度のシンボルとして作製するモザイク画などに力が入りますから、今回のフラッグアートは本校にぴったりの企画と言えます。2 年生で美術を選択している生徒を中心に参加いたしました。

実際に 2 回、玉川大学から先生方と学生さんに来校いただき、フラッグ製作の手ほどきを受け、見本として大学生の作品を示していただき製作を開始しました。普段、具体のものを描くことがほとんどである生徒にとって、フラッグのデザイン決定や染料の扱いは初めての経験でした。しかし、大学の先生方、学生さんに直接アドバイスをいただくことができ、不安気だった生徒達の表情がだんだんと軟らかくなり積極的な取り組みになっていきました。大学生と生徒のやり取りはとても微笑ましい光景で、このような経験の積み重ねが、大人への敬意、年下の者へのいたわりなどを実感させるよい機会であると考えます。

参加した生徒からは、「大学の先生に教えていただいたことは、とても新鮮でした。布に描けたこともよい勉強でした。」「一度塗ると修正が出来なかったり、考えて塗らないとにじんだり、苦労しました。作品が町に飾られたことは、とても貴重な体験でした。」など、喜びにあふれた感想が届いています。

作品をすべて写真に収め校内に展示したところ、生徒や教職員、来校者の方々から「個性的ですばらしい。ぜひ本物を見なければ・・・」などの反響がありました。

平素より、ボランティアコーディネーターの前野さんには大きな支援をいただいておりますが、今回もエネルギーギッシュに対応していただきました。ありがとうございました。

今後も地域や玉川大学との連携の中で、生徒の成長の機会を広げたいと考えております。

